

仮想インターネット閲覧システム構築賃貸借(長期継続契約) 要件一覧

| | |
|------------|--|
| ユーザ数 | 仮想インターネット閲覧システム(以下、システム)を利用するユーザ数を2,400とする。 |
| 同時接続数 | 同時接続数を600とし、無害化処理を同時100以上とする。 |
| 接続クライアント環境 | 主に、100MbpsのエッジHUBに接続されたノートパソコンである。 OSは現時点ではWindows10でありCPU core i3 3110M 2.4G 以上 メモリ2GB~4GBである。 拠点間通信として専用線およびインターネットVPN経由で本庁と接続されている。 |
| 接続ネットワーク環境 | 兵庫県セキュリティクラウドを経由したインターネットアクセスとなっており接続回線速度は200Mbpsとなっている。 |
| 機能(ブラウザ) | 接続クライアントが低速通信環境でも、利用可能な仕組みが考慮されていること。 |
| 機能(ブラウザ) | ユーザ毎のブックマーク、履歴、Cookieの保存が可能であること。 |
| 機能(ブラウザ) | コンテナなどの仮想化技術により、ユーザ毎の環境が分離独立していること。 |
| 機能(ブラウザ) | インターネット閲覧中にマルウェアが含まれたファイルをダウンロードしてしまった場合も、仮想ブラウザを終了することでマルウェアを消去でき、接続クライアント、他のユーザコンテナ、及びシステムのOS に感染しない仕組みを有すること。 |
| 機能(ブラウザ) | Windows10の32bit並びに64bitのOSを搭載した接続クライアントからの利用が可能なこと。 今後のOS更新に関しても、保守内で対応すること。 なお、仮想ブラウザは Edge(Chromium版)もしくはFirefoxもしくはChromeとすること。 |
| 機能(ブラウザ) | 接続クライアントのローカルブラウザで外部インターネットリンクのクリックやアドレス入力をした際に、仮想ブラウザで表示するリダイレクト機能を有すること。 |
| 機能(ブラウザ) | リダイレクト機能において、クライアントのローカルブラウザで表示するアドレスをホワイトリストとして管理できること。 ホワイトリストに登録されていないアドレスの際は仮想ブラウザへ転送し表示されること。 |
| 機能(ブラウザ) | システム上から接続クライアントのローカルドライブやリムーバブルドライブなど各種記憶領域へ無害化コンポーネントを経由せずにファイルを受け渡しできないこと。 |
| 機能(ブラウザ) | 仮想ブラウザは、画面の最大化、最小化、サイズを自由に変更できること。 |
| 機能(ブラウザ) | 接続クライアントとシステムの仮想ブラウザ間で、テキストのコピー及びペーストが可能なこと。 |
| 機能(ブラウザ) | 接続クライアント上で動画、音声の視聴が可能なこと。 また、PDFファイル及びOffice文書の閲覧が可能であること。 |
| 機能(ブラウザ) | クライアント証明書が必要なサイトへの閲覧において、ユーザごとにクライアント証明書の登録ができること。 |
| 機能(ブラウザ) | 現行システムで使用している仮想ブラウザ(FireFox)からエクスポートしたブックマーク情報を移行できること。 |
| 機能(ブラウザ) | 仮想インターネット閲覧画面を、接続クライアントに登録されたプリンタに直接印刷できること。 |
| 機能(ブラウザ) | システムに接続する際に、ユーザ認証を求められること。 また、利用中のユーザの把握ができること。 |
| 機能(ブラウザ) | ユーザ認証はSSH 等、暗号や認証技術を用いて、サーバと安全に通信を行うこと。 |
| 機能(ブラウザ) | 仮想ブラウザに、グループまたはユーザ単位でセキュリティポリシーを適応可能であること。 また、ユーザによる仮想ブラウザのプロファイル変更を許可しない設定が可能なこと。 |
| 機能(ブラウザ) | 仮想ブラウザの設定を集中管理(ホームページやプロキシ設定、JavaScript 実行可否、履歴保存の可否、パスワード保存の可否など)する機能を有すること。 なお、これら設定については、ブラウザにより簡単に操作できること。 |
| 機能(ブラウザ) | CSVにより、設定の一括登録・変更・削除ができる機能を有すること。 また、AD/LDAP と連携する機能を有すること。 |
| 機能(ブラウザ) | インターネット接続時には、HTTP拡張ヘッダにクライアント端末のIPアドレスを設定することが可能であること。 |
| 機能(ブラウザ) | ログに記録したユーザ利用状況やシステムの利用状況を、レポートとしてグラフ表示により容易に参照できる機能を有すること。 |
| 機能(無害化) | システムを利用してインターネットからダウンロードしたファイルを、ユーザ操作により無害化を行い、無害化した安全なファイルを接続クライアントへ取り込む機能を有すること。 |
| 機能(無害化) | 本システムのみでファイル無害化が可能なこと。 |
| 機能(無害化) | 接続クライアントからインターネットへファイルをアップロードする機能を有すること。 その際、ファイルアップロードのログを記録し、だれが、いつファイルをアップロードしたかの証跡を残すこと。 |
| 機能(無害化) | 接続クライアントのローカル環境から仮想ブラウザ環境へのファイルアップロードに関し、上長承認機能を有すること。 また、接続クライアントへのファイル取り込み時にはファイル無害化を利用予定だが、設定追加により上長承認によるファイルダウンロードも利用可能とする機能を有すること。 |

| | |
|-----------|---|
| 機能(無害化) | 以下のファイルフォーマットの無害化に対応していること。 Microsoft Officeファイル(Excel, Word, PowerPoint)、PDFファイル、画像ファイル(BMP, GIF, PNG, JPG, TIFF)、CADファイル(DWG, DXF)、一太郎ファイル(JTD) 圧縮ファイル(ZIP, TAR, GZIP) その他(CSV) |
| 機能(無害化) | 悪意のあるプログラムの有無にかかわらず、すべての対象ファイルを無害化することで、シグネチャの存在しない未知の攻撃も防御すること。 |
| 機能(無害化) | ファイルの拡張子に拘らず、正しいファイルタイプを認識できること。 |
| 機能(無害化) | パスワードロックされたファイル(圧縮ファイル含む)も、ユーザ側の操作(ユーザがパスワードを入力する等)で無害化処理が可能なこと。 |
| 機能(無害化) | 無害化されたファイルは元のファイルと同じ形式であり、閲覧、編集、印刷等ができること。 |
| 機能(無害化) | ファイル無害化に失敗した場合はダウンロードできないこと。 |
| 機能(無害化) | アンチウイルスソフトのエンジン機能を有し、既知のマルウェアをシグネチャベースで隔離できること。 また、シグネチャはインターネット経由で自動的にアップデートできること。 |
| 運用スケジュール | サービス提供時間を、24時間/365日とする。 ただし、緊急性のある事象に対応するため再起動が必要な場合は協議の上実施する。 |
| 業務継続性 | 可用性を考慮した機器構成とし、縮退運用時にもサービス継続できるようにすること。 |
| ログ取得 | システムを利用したユーザのログ及びサーバのログを、3ヶ月分以上保存できること。 なお、保存するログは次のとおりとする。 ユーザ名・クライアント名・IPアドレス・接続時間・終了時間・システムの利用状況(CPU, メモリー, ネットワーク等) |
| 機能(ブラウザ) | システムを同一ユーザが長時間占有できない仕組み(アイドル時間や接続時間が一定時間経過した場合に強制的に切断する機能や、管理者による手動での切断機能など)を有すること。 |
| サーバ処理能力増強 | 本稼働後において急激な利用者増加による負荷増大に対して、処理能力増強の手段を取りうる構成とすること。 |
| サーバ処理能力増強 | 負荷分散の機能を有すること。 負荷分散は当該製品のみで実現可能で外部ロードバランサー等の追加設置が不要であること。 |
| サーバ処理能力増強 | 冗長化の機能を有すること。 冗長化は当該製品のみで実現可能で外部ロードバランサー等の追加設置が不要であること。 |
| バックアップ | 機器障害等からの早期復旧のため、システムバックアップを取得する仕組みを有すること。 |
| バックアップ | 構築時にはシステムバックアップを取得し外部記憶媒体にも保管すること。 |
| バックアップ | システムに変更が発生した場合は、都度システムバックアップを取得し、別機器に保管すること。 |
| バックアップ | ユーザ情報、ブックマーク、履歴、Cookieの週次バックアップを行い、直近3世代の保存をおこなうこと。 |
| バックアップ | バックアップデータを用いての復旧を想定したテストを行い、最新保存データ時点までの状態に復旧することを確認すること。 |
| セキュリティ | 構成するサーバには、ウイルス対策ソフトを導入すること。 |
| セキュリティ | システムのOS、ソフトウェアのセキュリティアップデートが可能なこと。 |
| セキュリティ | ウイルス対策ソフトのパターンファイル更新を自動的に行い、常に最新状態に保つこと。 |
| セキュリティ | 導入システムに関するパッチ情報を都度提示し、影響度調査及び適用を保守の範囲で行うこと。 適用のタイミングは協議の上決定すること。 |
| 保守 | 障害時の問い合わせ窓口として運用サポートを一本化し、障害が発生した場合に即時対応できる要員を確保できること。 ※障害受付は、原則として平日9:00~17:30(土、日、祝日を除く。)までとするが、複数機器障害によるシステム全体の停止やウイルス感染等、緊急時においてはその限りではない。 |
| 保守 | 年1回以上の定期保守を行うこと。 |
| 保守 | 導入時の環境情報や、障害対応のナレッジ蓄積および管理を行い、保守対応すること。 |
| 保守 | UPSのバッテリー劣化に対応するため、定期的な交換を保守の範囲で実施すること。 |
| 業務停止時の復旧 | 障害受付後に、速やかに一次回答することとし、委託者が指定する期日までに復旧できること。 ※原則、障害発生後24時間以内に復旧すること。復旧とは、障害発生前の水準で業務が遂行できることとする。 |
| ライフサイクル | 少なくとも7年間は保守等により安定稼働可能なシステム及び機器構成であること。 |
| 構築 | 日本国内にて製品開発が行われていること。 障害発生時など状況により、保守窓口から開発部門へのコンタクトが日本語にて迅速に行われること。 |
| 構築 | 仮想Webブラウザシステムの自治体向け販売実績が10団体以上あること。 また、4年以上継続して保守の実績を有すること。 |

| | |
|----|--|
| 構築 | LGWAN 接続セグメントとインターネット接続セグメントのネットワーク間に、論理分離を実現出来るシステムを構築すること。 なお、インターネットとLGWAN セグメントの環境は別セグメントとし、特定の通信のみを許可するものとする。 |
| 構築 | システムについては、本仕様書と同等規模の導入実績等を勘案し、安定的に稼働する性能を有した過少のないシステム構成で構築するものとする。 なお、導入後にシステム構成が過少であることにより、システムの利用に以下の不具合等が生じた場合は、受託者により増強等の措置を講ずることとする。 ・システムを同時に利用できる上限数に達していない状態において、利用(接続)できない。 ・システムが利用中に無応答となる。 ・システムの利用中に意図しない切断が生じる。 ・動画再生において画面が動かない、音声が出ない、もしくは途切れる。 |
| 構築 | システム稼働後のユーザの異動(追加、変更、削除)が、委託者において対応可能な仕組みであること。 なお、導入時の初期設定は、受託者により実施するものとする。 |
| 構築 | システムの当初利用環境整備のうち、接続クライアントの環境設定については委託者が実施するため、インストーラの提供など、配布や展開が可能な仕組みを有すること。 |
| 構築 | システムの稼働に伴う事前検証(テスト)については、既存ネットワークに影響が発生しないように委託者の指示に従った対応が可能であることとし、既存ネットワーク保守事業者との間で必要な協議などについても真摯な対応を行うこと。 また、システムの仮(並行)稼働や、試験稼働など柔軟な対応が可能であること。 |
| 構築 | 単体・結合・システムの各テスト時にレビュー及び結果報告を行い承認を得ること。 |
| 構築 | 本稼働後、最長1週間の立ち合いを行い、問題発生時には即時対応を行うこと。 |
| 構築 | 仮想ブラウザ及び無害化システムの利用に関する利用者向けマニュアルを作成し提供すること。 |
| 構築 | 仮想ブラウザ及び無害化システムの管理に関する管理者向けマニュアルを作成し提出すること。 |
| 構築 | 作成したマニュアルについて管理者向け説明会、ならびに利用者からの問い合わせに対応するヘルプデスク向け説明会を開催すること。 |
| 構築 | システム設置場所は本庁内の地域情報センターとし、19inchラックを使用する。 搭載に必要なネジ類は受託者にて用意すること。 |
| 構築 | 新庁舎建築に伴い、将来移設が発生することを考慮した構成設計をすること。 |
| 構築 | 導入機器は、機器本体及び付属品、電源ケーブル、ネットワーク接続に必要なケーブル等、追加購入が発生しないよう不足なく準備すること。 |
| 構築 | UPSと連携し、停電時等に安全にシャットダウンできる機能を要すること。 |
| 構築 | ServerCALやRDS CAL等、システムの利用に必要なライセンス費用は、全て含むこと。 |